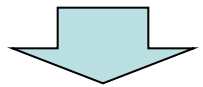


静岡市（静岡地区）（北陸圏・中部圏ブロック）

【計画期間 21年3月～26年3月】

江戸時代は徳川家康居城の城下町、近代は県政治・経済の中枢拠点として発展。

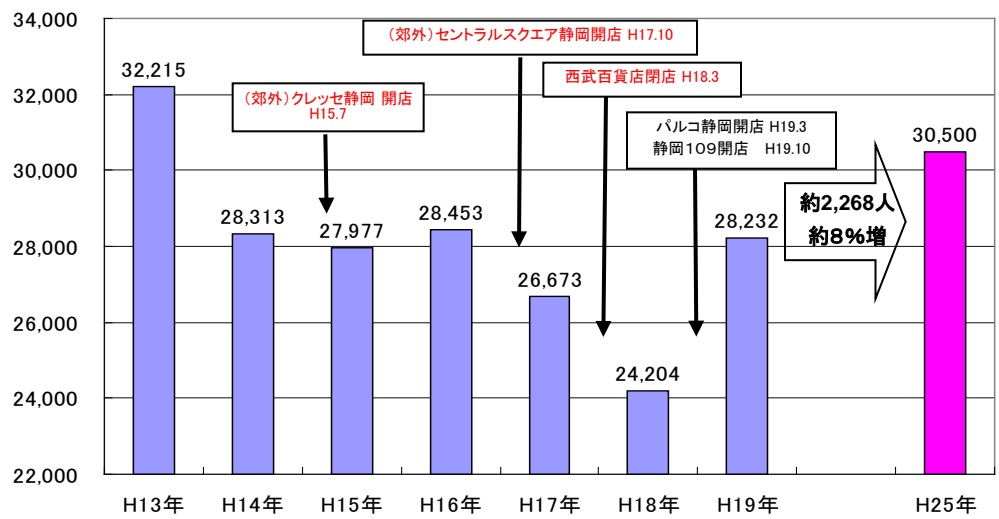
- JR静岡駅等交通の結節点を中心に公共施設、商業集積が面的に広がり。
- しかし、歩行者通行量等経済活力面において一律に低下傾向。従前の賑わいを維持することが困難化。
- 特に、まちなか活力の担い手である子育てファミリー世代の中心市街地ばなれが深刻。



- 休日の歩行者通行量
H10: 31,721人
→ H19: 28,232人 (▲約11.0%)
- 年間小売販売額
H9: 2,680億円
→ H19: 1,586億円 (現況推計値)
(▲約40.8%)

目標	指標	現況値 (H19)	目標値 (H25)
「人」が集まる魅力・にぎわいのまち	年間小売販売額	1,586億円/年	1,684億円/年 (6.2%増)
	施設利用者数	168万人/年	180万人/年 (7.1%増)
「人」が主役の憩い・くつろぎのまち	休日の歩行者通行量	28,232人	30,500人 (8.0%増)

(人) 【歩行者通行量[休日・15地点]の推移と数値目標】



- 集客・交流機能の向上により、「人」が集まる魅力・にぎわいのまちを目指す。
⇒主要事業: ①新静岡センター建替、②再開発事業による商業等機能拡充、③市立病院新館建設 等
- 都市空間の質的改善を行い、「人」が主役の憩い・くつろぎのまちを目指す。
⇒主要事業: ④静岡駅北口広場整備、⑤まちなか商業空間モール化、⑥交流イベントの実施 等

静岡市中心市街地活性化基本計画（静岡地区）の事業概要

「人」が集まる魅力・にぎわいのまち

○新静岡センター建替事業(①)

大型商業施設、新静岡駅（静岡鉄道）、バスターミナルが集約して立地している同センターの老朽化に伴い、**商業・交通の複合機能を持つ建物を一体的に整備し賑わいの向上を図る。**



○再開発事業による商業等機能拡充(②)

・JR静岡駅北口駅前正面に位置する「紺屋町地区」の建物の老朽化等を踏まえ、「都市型美術館」を核とし、大型商業施設、宴会場、駐車場等を備えた**再開発ビルを整備し、駅前の新たなランドマークとする。**

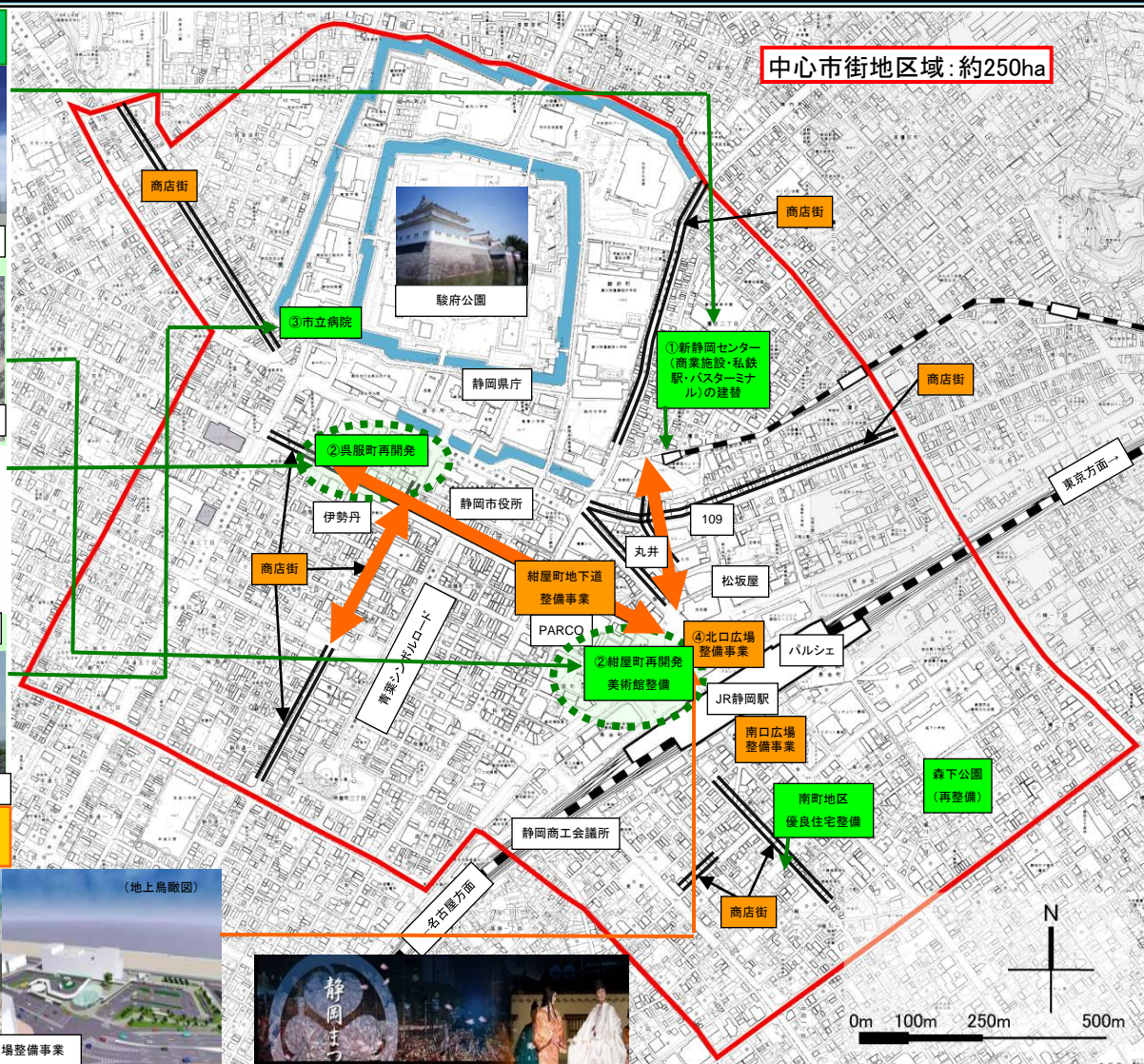


・古くから栄えてきたが老朽化が進み、高度化利用が課題の「呉服町地区」において、商業機能・住宅等を一体的に整備し**中心市街地に相応しい新たな集客核づくりを進める。**



○市立病院新館建設事業(③)

新たな医療機器の導入や緊急外来の拡充等により**市民の利便性向上を図る。**



「人」が主役の憩い・くつろぎのまち

○JR静岡駅北口広場整備事業(④)

地下道の迷路化等により、来街者の利便性が損なわれているため、「中央広場」と明るく開放的な吹き抜け空間を持つ「地下広場」を一体として整備し、**まちへのアクセス利便性を高める。**



○(仮称)まちなか商業空間モール化推進事業(⑤)

自動車抑制、歩行者優先の交通社会実験等中心市街地モール化構想の検討を行い、**人が主役のまちづくりを進める**(部分)。



○「静岡まつり」等多彩な交流イベントの実施(⑥)

イベントを通して幅広い世代、市内外からの来街者の活発な交流を図る。



○活気溢れる商店街活動への支援

区域内の商店街において、独自性の高い商品、サービス等の研究や商店街に新規出店する者への静岡市の支援等により、**商店街の活性化を図る。**

